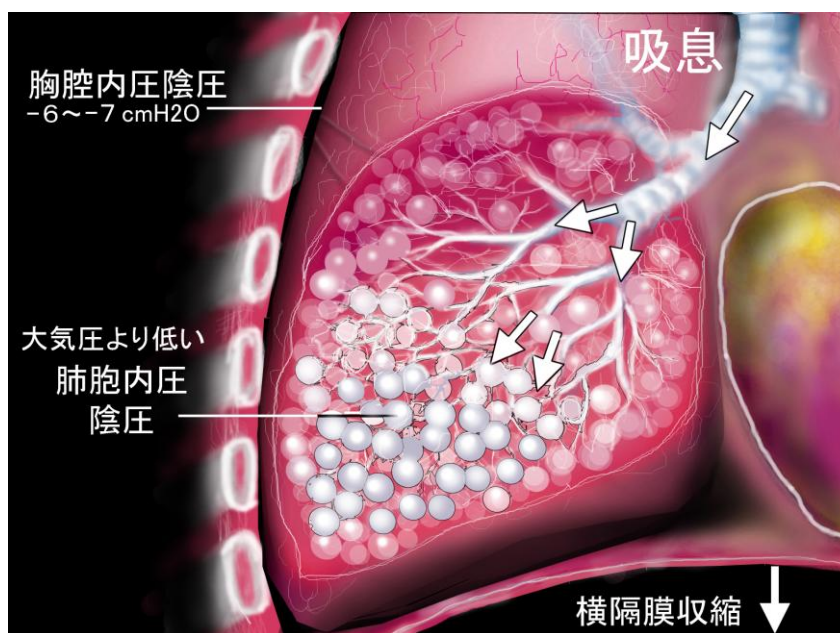
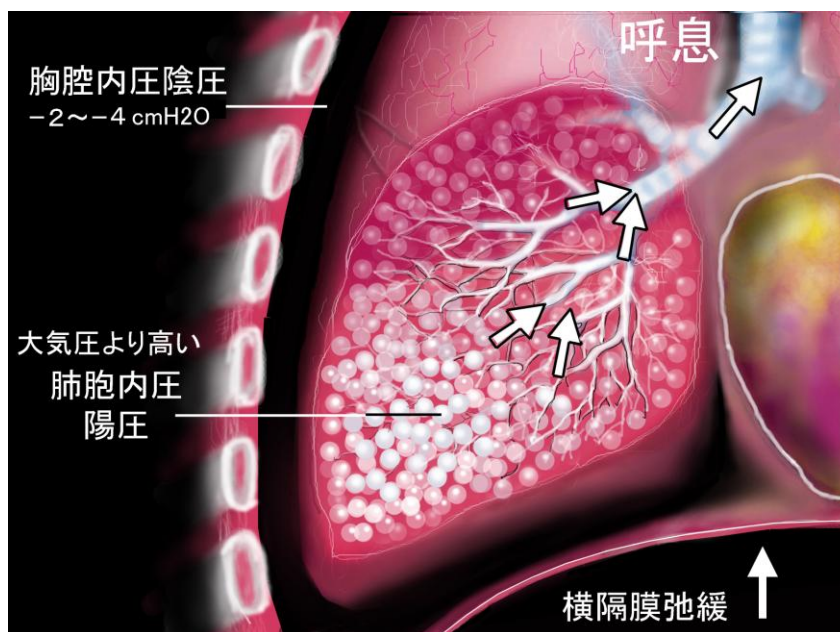


呼吸時の胸腔内圧と肺胞内圧の変化



横隔膜と外肋間筋の収縮によって胸郭が拡大すると、胸腔内圧の陰圧が高まり、肺は自身の弾性収縮力に打ち勝って膨らんで吸息となる。吸息では肺胞は膨らみ、肺胞内圧が大気圧より低くなった時に空気が流れ込む受動的な作用である。



横隔膜と外肋間筋の弛緩によって胸郭が縮小すると、胸腔内圧の陰圧が弱まり、肺は自身の弾性収縮力によって縮んで、肺胞内圧が大気圧より高くなった時に呼気が起こる。肺の縮む原動力は肺胞壁の弾性線維である。